

はがの文芸

町文化協会では参加者を募集しています。
詳細は町民会館まで
☎028(677)0009

短歌

不揃えのとうもろこしを手にとりて
孫ら集いば笑顔はじける
佐山 美代子(下高根沢)

小雨降る朝に燵の気力見る
稲穂かき分け一人ヒエ抜く
岡田 ツヤ子(西水沼)

俳句

コロナ禍や都会に送る今年米
稲の香をまどひ道草下校の子
小林 元子(東高橋)

川柳

本当の幸をコロナに教えられ
片付けをしたら出て来た五円玉
山本 美枝子(稲毛田)
七井 章治(与能)

前向きにすごした月日を懐かしむ
老いて夫婦の午後のひととき
山本 妙子(上延生)

稗を抜く同じ稲科が競い合う
利無きは疎みて羨み外す
荷見 泰一(芳志戸)

ままごとの花瓶に挿せる草の花
十五夜におとぎばなしに興ずる児
福武 幸子(下延生)
上野 恭子(真岡市)

女子会の声が健康盛り上げる
温暖化いつかだれかと他人ごと
吉住 広子(祖母井)
石川 文治(市貝町)

※「お楽しみ川柳」参加者



県少年の主張芳賀地区大会最優秀賞に塩澤昊季さん

9月に、芳賀中学校3年の塩澤昊季さんは「話を聞いて」と題し、周りの人の支えにより少しずつ前を向くことができた経験から、話を聞くことの大切さを主張しました。最優秀賞に選ばれ、県大会に芳賀地区代表として出場しました。

話を聞いて

芳賀中学校3年 塩澤 昊季

「あ～だるい。頭が重い。動きたくない。」
また、朝が来た。部屋の扉の向こう側から、
母の声が聞こえる。

「今日は、どうするの？学校行けるの？」

「無理。行かない。」

布団を頭からかぶりつぶやくように返事をする。毎朝、この繰り返し。これが、一年半前の私でした。

私たち中学生は、心身ともに子どもから大人へと変化していく思春期を生きています。この誰もが経験する思春期に起こりえるのが「不登校」です。何らかの事情や理由で、精神的・肉体的に辛くなり登校できなくなってしまうのです。不登校の生徒は、日本中で、現在15万人以上いると言われて

います。
私は、一年生の秋から学校に行けなくなりました。特に、誰かからいじめられたとか、嫌がらせを受けたということはありません。その当時のクラスメイトとの間に少し「感覚のずれ」を感じるようになったことがきっかけでした。そして、クラスでの居心地が悪くなり、気が付けば学校を休むようになりました。学校に行かなければ、と頭では分かっている、気持ち前を向かず、体が動いてくれないのです。

学校に行かなくなり、一日中自宅にいる時は、ずっと暗闇の中をさまよっているようでした。毎日、ゲームをし、YouTubeを観て時間を過ごす。昼食は、母が作ってくれた物を食べる。そして、眠くなれば眠りにつく。気が付くともう夕方。夕食だけは家族と食べるものの、両親は、私を気遣っているのか、学校のことについて話しかけてはこない。会話というほどの会話もない。そして、12時になったら寝る。その繰り返しの日々でした。周りから見ると、自由気ままに楽しんでいるように見えてしまうかもしれませんが、何の生産性もない無味乾燥な毎日に、いつしか私の胸は張り裂けそうなほどの苦しみを抱えるようになりました。こんな辛くて苦しいのなら、いっそのこと自分なんか・・・とまで考えるようになっていました。

そんなどん底にいる自分をたくさんの人が助けようとしてくれました。学校の先生や友人、カウンセラーの先生。その中でも一番面倒をかけたにも関わらず、支え、助けてくれた

のが、両親でした。母は、不登校になった私を責めることは一度もありませんでした。母は、いつでも「大丈夫だよ。」と何度も私に声をかけてくれました。その一言で、私の心がどれだけ救われたことか。

そんな両親の勧めで、カウンセリングのために訪れた、ある病院の小児科の先生は、批判めいたことを何も言わず、私の話を親身に聞いてくれたのです。話を聞いてもらう、ただそれだけで、どれだけ心が軽くなったことか・・・。

何度かカウンセリングを受けていくうちに、少しずつ前向きな気持ちが芽生え、私は町の教育支援センターに通うことができるようになりました。そこでは、私と同じように学校に通うことができない小学生や中学生と一緒に、勉強したり、スポーツをしたり、遊んだりして過ごしました。彼らと関わるうちに、人と関わることの恐怖心が次第になくなっていき、あれ程人と話すことが苦手だった私が支援センターの中でおしゃべりな人間になっていたのです。そして、どうすればうまく人とコミュニケーションがとれるのかが分かるようになりました。

その方法は、「相手に微笑みかけること」です。いきなり話しかけるのは、難しくても、相手の方を向いて口角をあげるだけで、自分も相手も少し互いの距離を縮められたような気になるのです。「自分はあなたに敵意はないよ。仲良くしたいと思っているよ。」と伝えることが大事なのです。

自分なりに見つけた方法で、今では学校に行くことが当たり前になり、友達もできて楽しく学校生活を送っています。

しかし、私のように、周りの支えがあり、運良く学校に行けるようになる人は多くありません。なかなか本音を話せず、自分でもどうすればよいのか分からずに悩み続けている人もたくさんいると思います。もし、あなたの近くに、そんな人がいたら、耳を傾けてあげてください。ただ話を聞いてくれるだけでいいのです。すぐには解決しないかもしれませんが、あなたが話を聞いてくれるだけで、少しずつ前を向く力が湧いてくるのです。「話を聞いてもらえる」だけで、救われる人がたくさんいるのです。みなさん、少しだけ、話を聞いてくれませんか。



あなたの声を聞かせてね！ お便り待ってます！

●身近な出来事や町に関する要望・意見

芳賀町文化協会会長
駿河富夫さん(稲毛田)からの投稿

ノーベル賞を取るための5カ条
ノーベル物理学賞江崎玲於奈さんの話から

1. 今までの行きがかりにとらわれてはいけない。
2. 大先生にのめりこまない。
3. 無用なガラクタ情報に惑わされてはいけない。
4. 自分の主張を貫くには闘うことを避けてはならない。
5. 子どものような飽くなき好奇心と初々しい感情を失ってはいけない。

これらは、物理分野以外でも大切なことです。仕事などにおいても、心に留めておきたい言葉だと思います。いくつになっても好奇心を持ち続け、健康な生活を送りたいものです。

高松イクさん(下高根沢)からの投稿

叱るより褒めて育てる

相撲の世界でも褒める指導をしているそうです。9月26日の大相撲テレビ中継でアナウンサーが言っていました。褒めることの重要性を感じました。普段の生活でも、褒められたらいい気分になります。その一言が、相手を落ち込ませるか、喜ばせるかを決めてしまいます。うきうき気分になれる言葉を選びたいものです。

「叱るより褒めて育てて効果倍」



高松イクさん(下高根沢)



早月さん(稲毛田)



戸内スミ江さん(下高根沢)



鈴木モコさん(西高橋)

税
人材募集
お知らせ
イベント講座
健康
子育て
相談
知の拠点
芳賀町人
タウンレポート
文芸・お便り